

第 2 回 高田短期大学外部評価委員会報告書

日 時：平成 30 年 7 月 3 日（火）16 時 30 分～18 時 30 分

場 所：高田短期大学第 4 会議室

出席者：【外部評価委員】

三重短期大学 学長 東福寺 一郎

真宗高田派本山専修寺 教学総務 鈴木 紀生

三重県立久居高等学校 校長 谷口 光暁

学校法人専修学園 高田幼稚園 園長 佐藤 弘道

社会福祉法人高田福祉事業協会 高田保育園 園長 栗真 恵光

社会福祉法人聖ヨセフ会松阪 理事長・三重県老人福祉施設協会 副会長 高木 章吉
(敬称略)

【外部評価準備委員】

栗原 廣海、千草 篤麿、鷺尾 敦、野呂 健一、福西 朋子、山口 昌澄

河北 浩峰、岩間 知之、金丸 博文、加藤 光博、竹内 貴彦

事 項

1. 開会

ALO 山口より開会宣言が行われた。

2. 学長・自己点検評価委員長あいさつ

【学長・自己点検評価委員長 栗原】

みなさんこんにちは。本日は大変ご多忙の中、本学の第 2 回外部評価委員会にご出席賜りまして誠にありがとうございます。昨年は第 1 回といたしまして、建学の精神、教育の理念、教育の目的・目標、それに基づきます三つの方針、特にディプロマポリシー、そして建学の精神や教育の理念を伝え、浸透させるための授業や行事等、これらにつきまして、いろいろご検討をいただき、ご意見を頂戴いたしました。それ以降、本学といたしましては頂戴したご意見をもとに、まず「新しい学力の三要素」をベースにしたディプロマポリシーについて、その改訂を現在審議中でございます。そして、そこに記される学修成果を可視化し、学生が振り返ることのできるツールとしてルーブリックを作成中でございます。また、授業改善の一環といたしまして、LMS、つまり授業管理システムであります「manaba」を導入し、学生の主体的でより深い学びの促進を目指しているところでございます。また前回、教養科目に関するご指摘を頂戴いたしました。それを元に、平成 31 年度の共通教養科目を改変し、「仏教学Ⅰ」「仏教学Ⅱ」と申しておりました科目を「人生と仏教Ⅰ」「人生と仏教Ⅱ」へ変更いたしました。それから「環境学」を「暮らしと環境」という名前に変更いたしますと共

に、自然科学分野、社会科学分野から「暮らしと数学」「暮らしと政治」という科目を追加し、より充実した共通教養科目を実施していこうと考えているところでございます。

本日は、各学科コースのカリキュラムにつきまして評価いただきまして、様々にご意見を賜ることができればと考えております。90分という時間で十分にご意見を頂戴できるか、不安なところもございますが、どうぞよろしくお願いをいたします。

3. 外部評価委員紹介

ALO 山口より外部評価委員の紹介があった。

4. 本学出席者紹介

ALO 山口より学内出席者の紹介があった。

5. 配布資料について

ALO 山口より資料確認（事前送付・当日配布・会場備付資料）があった。

【事前送付】

- ・平成 31 年度入学案内
- ・平成 30 年度学生便覧
- ・平成 29 年度事業報告書
- ・平成 29 年度「学生調査報告書」
- ・カリキュラムマップ
- ・履修マップ
- ・「高田短期大学授業評価実施規程」
- ・平成 29 年度「学生による授業評価アンケート報告書」
- ・平成 29 年度授業評価事業関連資料
- ・平成 30 年度時間割
- ・スタートアップゼミナールルーブリック評価
- ・実習ガイドブック
- ・実習関連資料
- ・スキルアップチャレンジシート（キャリア育成学科オフィスワークコース）
- ・卒業研究発表会資料

【当日配布】

- ・第 2 回 高田短期大学外部評価委員会事項書
- ・第 2 回 高田短期大学外部評価資料一覧表
- ・外部評価委員会構成メンバー表

- ・ 第2回外部評価委員会座席表

【会場備付資料】

- ・ 全科目シラバス（印刷）

6. 議題

(1) 評価項目の説明および質疑応答

【子ども学科長 千草】

子ども学科のカリキュラムの特徴ということで時間を頂いております。今からのお話は、学生便覧を中心にお話をさせていただきたいと思っております。

学生便覧は各学科コースのカリキュラムが出ておまして、いろいろ資格等の説明もしております。子ども学科のカリキュラムは幼稚園の教職課程の部分と、保育養成課程の部分が中心となります。資格ということになりますと、「社会福祉主事任用資格」という昔からの資格を入れ込んで、「レクリエーションインストラクター」という資格もカリキュラムの中に入れ込んだものになっております。学生便覧の15ページを開けていただきたいと思います。幼稚園教諭二種免許状に関しまして、こういう（15ページに示すような）定めがあるわけなのですが、左側が「教育職員免許法施行規則」、それから右側がそれに対して高田短期大学の子ども学科がどういう科目を配置しているかということを見ていただきたいと思います。この教育職員免許法施行規則の左側の一番上にありますが、「(規則)第66条の6」に定める科目があげてあります。これは、幼稚園、小学校、中学校（の教員養成では）みな定められておまして、変えるわけにはいきませんので、「日本国憲法」「体育」「外国語コミュニケーション」「情報機器の操作（情報機器演習）」を、このまま入れ込んであります。体育のところは2単位ということなのですが、講義・実技ということで3単位出しますので、本学の設置の方が1単位多いということになっております。

その下が「教科に関する科目」なのですが、幼稚園の教員免許ですので、教科というものがないわけです。小学校の教科と同じものをあげている。この施行規則では国語、生活、音楽、図画工作、体育つまり「音・図・体プラス国語と生活」、本来ですと、ここに「算数」が入るわけですが、本学の場合ではカリキュラムや時間割が目一杯ですので、以前から算数に関しましては入れておりません。よって「国語、生活、音楽、図画工作、体育」を当てております。施行規則では4単位あればいいということなのですが、国語に関するもの、音楽に関するもの、図工に関するもの、体育に関するもの一つずつ卒業必修科目にしまして、必ず生活以外の単位を取るようにしています。生活に関しましては選択ということにしております。

それから、「教職に関する科目」ですが、これも施行規則に合うように入れ込んであります。「教職実践演習」という科目は、これも幼稚園、小学校、中学校とみなあるわけですが、短期大学ですので、2年間のまとめということで、いろいろな形態でこの科目は設定できるわけです。2年間どのようなことを学んできたかということディスカッションしたり、そ

れから、今日も高田幼稚園さんに来ていただいておりますが、そういうところに実習を終えた後に、もう一度自分たちの目で保育を確認しに行く、そして発表をするというようなことをしております。これは、保育士養成課程も同じようなものがありますので、これを「保育教職実践演習」という流れで、両方やっております。

それから、(学生便覧)16ページのところが、児童福祉法施行令によります「保育士養成課程」の科目です。この辺りも定められたものを幼稚園免許の方と上手く合わせながらカリキュラムの編成を行っております。下の方に「保育実習」というところがありますが、保育実習Ⅰが4単位となっております。保育実習というのは保育園だけではありませんので、保育園と児童福祉施設、両方別々に実習しまして、両方でトータルして単位を出すということになっております。

17ページを見ていただきますと、左端が選択必修科目となっておりますが、保育士養成課程の選択科目の中で、一番最後が保育実習となっております。先程見ていただきましたのは、必修科目の保育実習、こちらの方は選択必修となっております。「保育実習Ⅱ」又は「保育実習Ⅲ」というのが入っております。カリキュラムのうえではⅡとⅢというのをあげておるわけですが、実際のところⅢというのは、いわゆる児童福祉施設(実習)です。Ⅱの方は保育所の実習です。保育実習Ⅲを開いたこともありました、選択する学生がほとんどいませんでした。カリキュラムにはあげてはおりますが、実際は休講といえますか、開いてはおりません。保育実習Ⅱだけやっているということになります。

それから、17ページの下に「レクリエーションインストラクター資格」があります。これはレクリエーション協会の定めるとおりの科目ではあるのですが、この科目は卒業が資格の要件になっておりませんので、1年間で取ろうと思えば、取ることができます。「教育実習Ⅰ」を「現場実習」のところへあてておまして、1年生で取る科目です。ですので2年生の実習に行くときには、レクリエーションインストラクター資格を持って行くことができるということになっております。それから「社会福祉主事任用資格」、これは、厚生労働大臣の指定科目34科目の中から、本学では「発達学習心理学」「社会福祉」「保育原理」この3科目を取れば、取得できます。これは、保育士資格を取りますと、全部取らなければいけないということになりますので、保育士資格を取れば、必ず社会福祉主事任用資格がついてくる。社会福祉主事任用資格というのは、今、あまり使いませんが、社会福祉を一通り勉強したということで、昔からある資格ですので、こういったものもカリキュラムの中に入れております。

配布した資料の中で、例えば「ゼミナールⅡ」の発表会、それから、「保育教職実践演習(幼稚園)」の資料等があったかと思えます。これらが、ゼミとか実践演習の学修成果となっているので、見ていただきたいと思えます。

それから実習がたくさんありますが、教育実習、保育実習、施設実習。それぞれ終わりますと、指導していただいた園の先生たちに来ていただきまして、反省会をしております。反省会の資料もそこに入っております。これは案外、どこでもやっているわけではない

そうで、園の先生からは非常に好評です。こちらでも直接お話が聞けますので、翌年の授業の参考にしてやっておる、ということです。

【キャリア育成学科長 鷲尾】

キャリア育成学科について説明させていただきます。学生便覧の18ページ目からキャリア育成学科ならびにオフィスワークコース・介護福祉コースのカリキュラムに関することが書いてあります。まず、キャリア育成学科のカリキュラムの説明をする前に、この学科の成り立ちを簡単に紹介させていただきたいと思います。その方がカリキュラムを理解するうえで確かかと思います。

まず「オフィスワークコース」ですが、1984年に「教養科」から始まりました。それが「教養学科」となりまして、その後、職業教育に力を入れるということで教養以外に実務教育もおこなっていくことになるわけですが、2001年に「オフィス情報学科」となりました。これは時代の流れで、コンピュータを活用した実務能力を育成していこうということで、情報教育に少し力を入れているような形でした。

2011年ごろには、コンピュータを使うのは当たり前の時代になってきました。それよりも“人材育成”という視点が重要であるということで、「オフィス人材育成学科」と学科教員で検討し、名称を変更いたしました。

一方「介護福祉コース」なんですが、2006年、地域の要請といいますが、そういうことで「人間介護福祉学科」が設立されました。その後、人間介護福祉学科がなかなか募集するということが難しいところがありまして、学科一つで運営していくのが難しいであろうということで、二つの学科を一つにしていこうということが本学の方で決まりました。では、二つの学科を一つにするにはどうしたらいいのかということで、検討した結果出てきた解答がこれから説明するカリキュラムになります。人材育成というところに視点を置いて、キャリアデザインということと、汎用的な力を育てるところに着目して、それを接着剤として、違う専門の学科を一つの学科にすることができたわけです。キャリア育成学科の18ページ目の方を見ていただきたいのですが、まず、この学科は、地域社会で活躍できるオフィスワーカーや介護福祉士を育成する。これが教育目的です。そして育てていく学生をどのように育てていきたいかという教育目標なんですが、二つありまして、一つが一人ひとりの学生が、将来の自分を見据えて、自分の働き方、キャリアデザインを描いて、そしてそのキャリアデザインを実現していくための力、ベースとなるものをこの2年間で身につけるとというのが一つ。そしてもう一つが「笑顔で」というところがありますが(学生便覧P18)、そこの最後の方に「あなたでなければ」と言われるような人。地域や社会、職場で信頼されて求められる人。そういうレベルまで持っていきたいと考えています。

この「あなたでなければ」というのは、オフィス情報学科で学科長をしていた真弓学科長の口癖で、学生にいつもそう言っていたことを活かさせていただいております。そのためにロゴも用意しておりまして、“スマイル”“スキル”“シンセリティ”、笑顔でコミュニケーション

ンができて、常に自分の技術や能力を高めようとする向上心があって、仕事や物事に対して誠実に取り組むというものです。スマイルは笑顔、スキルは能力、そしてシンセリティは誠実さ。この三つを持って「あなたでなければ」と言われる人になってほしいという願いで、教育を進めています。

では実際に、どのようなスキル、能力が得られるのかというのがカリキュラムです。カリキュラムに入る前に、そこに学位とあるのですが、キャリア育成学科は大変珍しく、学科を卒業いたしますと二つの学位記、オフィスワークコースは「ビジネス実務学」、介護福祉コースは「介護福祉学」というそれぞれのコースで、その専門分野とする短期大学士を得ることができます。そしてカリキュラムなのですが、22 ページをご覧ください。ここから3 ページにわたってキャリア育成学科の統一したカリキュラムがあります。左端が科目の分類になっておりまして、まず「共通教養科目」とあります。これは昨年度第1回委員会で議論していただいたものです。そして、キャリア育成学科としての専門科目がその下、3 ページ目までにわたっております。

キャリア育成学科は大きく二つの専門科目がありまして、「キャリア育成基幹科目」そして「キャリア育成応用科目」と分かれています。キャリア育成学科では、学生自らのキャリアをデザインする力を身につけてもらいたい、将来の在り方を考えてもらいたいということで、「キャリア」という領域を設けております。描いたキャリアを実現していくために専門科目があって、その専門科目がそれぞれオフィスワークコース、介護福祉コースにもあるのですが、更に両方の学生に対して、どんな職場でもどんな職業に就いても必要とされるであろう社会人基礎力というような汎用力を身につけてもらいたいということで、キャリア育成基幹科目を用意しています。

私たちが描いている汎用能力というのは大きく二つありまして、一つは良好な人間関係を築く力ということで、「ヒューマンスキル」と私たちは呼んでいます。もう一つが経産省でも言われておる「社会人基礎力」です。多様な人々と一緒に仕事をしていくための力であるということで、経産省では大きく三つに分けられています。「前に踏み出す力」「考え抜く力」「チームで働く力」、これらを当てはめたのがそこ（基幹科目）にある領域でして、ヒューマンスキルに関わるのは「コミュニケーション」そして「ビジネスマナー」、社会人基礎力に関わるものとして「アクション」これは前に踏み出す力、それとチームで働く力（「チームワーク」）です。さらに「シンキング」、考え抜く力です。そして、総合として「ゼミナール」を配置しています。

キャリア育成応用科目としては、「オフィス」「ビジネス」「会計」「情報」「医療福祉」あたりまでが主にオフィスワークコース。「ピアヘルパー」「レクリエーション」「人間と社会」「介護」「こころとからだ」「医療的ケア」「介護福祉演習」が介護福祉コースの専門科目となりまして、それらの科目を学ぶことで、両コースそれぞれの専門性を高めることとなる。例えばオフィスワークコースでいえば、ビジネス実務の専門科目ですし、介護福祉コースでは、介護福祉士として必要な専門科目があり、それぞれ資格を取るための専門性があるとい

うこととなります。このような形で、キャリア育成学科のカリキュラムを配置しております。両コースは、キャリア育成基幹科目で接点を持っています。ただ、介護福祉コースの方は、資格取得のためにかなりの科目を取らなければならないということがありまして、キャリア育成基幹科目はオフィスワークコースの学生が多く取っているというのが実状です。学科全体のことについては以上です。

【オフィスワークコース長 野呂】

引き続きまして、オフィスワークコースのカリキュラムの説明をさせていただきます。先程、学科長が申し上げたとおり、どのような職場でも必要とされる汎用的なスキルを育成するためのキャリア育成基幹科目がありまして、それを基板としてさらに自分の描いたキャリアデザインを実現するために専門的な能力を身につける領域として、キャリア育成応用科目があります。オフィスワークコースでは六つの領域、「オフィス」から「医療福祉」まででございます。簡単に説明させていただきます。

オフィスの領域は、一般企業をはじめ様々な組織で求められるようなオフィスワーク業務の知識や実践力を身につけるための科目区分でありまして、オフィスワークの基本として秘書学、秘書業務を考えております。ビジネス実務の基本的な知識、実務能力を育成するための「ビジネス実務論」「ビジネス実務演習」、オフィスで英語を使う機会も増えておりますので、オフィスでの会話力を身につけるための「オフィス英語」という科目があります。

ビジネスの領域は、広くビジネスに関わるための専門的な知識を学ぶ「社会学」「経済学」「経営学」といった科目があります。それら以外にも、労働者が自らを守ることが必要ですので、そのための科目として「労働法」や、経営者の立場として経営の資源を学ぶような「経営管理論」など、すべては説明できませんが、そのような科目があります。

会計という領域につきましては、企業の経理、金融、財政について学びます。また経理処理能力を身につける科目ということで、簿記関係の科目が中心となっております。「簿記論」「商業簿記論」「工業簿記論」といった科目があります。それら以外にも「会計学」「租税法」という科目が用意されております。

情報領域の科目につきましては、コンピュータやネットワークの活用を実践できるということを目指しております。「情報処理論」というのはコンピュータやネットワークの基礎知識を学ぶ科目です。パソコンでの文書作成を身につける「文書情報演習」、表計算についての「ビジネス情報演習」という科目があります。蓄積されたデータを活用するための「データベース」という科目もあります。

医療福祉の領域につきましては、将来、卒業後に病院等で医療事務の仕事に就くための「医療事務」、介護福祉施設で事務員として働くための「介護事務」という科目があります。

このように様々な専門科目がありまして、その授業で学んだ知識やスキルを確実にするために資格取得にも力を入れております。便覧 20 ページをご覧くださいませでしょうか。授業内外で資格取得を支援しているものが載っております。先程の科目領域で言いますと、

オフィス・ビジネス分野で「秘書検定」「サービス接客検定」あたりを授業内外で支援しております。会計の分野では、簿記の力を測るいくつかの検定はあるのですが、代表的なものとして、「日商簿記検定」の取得を勧めております。簿記に関しては普通科高校から入学する学生についてはなかなかとつきにくいところがあります。例えば本学では検定前に授業以外で対策講座を実施したり、そういった支援を行ってございまして、成果もかなり上がっているということです。情報に関する資格では、「ワープロ検定」「表計算検定」「データベース検定」等の資格があります。こちらにつきましては、級が細かく設定されておりますので、それぞれの学生の習熟度に応じ受験するように勧めており、2年間でレベルアップして上位の資格を目指す支援をしております。医療福祉の分野は、卒業後の進路に応じまして「医療事務管理士」や「介護事務管理士」といった資格に挑戦させております。

あと資格支援をするために学生のモチベーションを上げるために、本学では「スキルアワード」というコース独自の表彰制度を設けてございまして、お手元の資料で「スキルアップチャレンジシート」も入っていたと思いますが、半期ごとに目標を立てさせてチャレンジさせます。半年間でたくさんの資格を取った者あるいは難易度が高い資格を取った学生を、コース全学生の前で表彰しています。また「最低限2年間でこれだけの資格は取ってほしい」というようなものも示してございまして、少なくとも2年間でそこまでは到達してほしいという我々の願いを込めております。

お配りした資料の中では、本学のカリキュラムの中で「社会体験実習学習」という関係の資料もお渡ししていると思います。こちらにつきましては、2年間で自らのキャリアを描いて実現するための、カリキュラムの中でも重要な位置づけとして考えてございまして、1年生の夏季休暇中に、企業・団体等に出向いて10日間の実習を行ってございまして、1年生の前期に準備学習として「社会体験学習」という科目がありまして、実習の心構え等を学ぶ。そして、夏休みに10日間の実習をする。その中で自らの課題を発見し、その後の学びの中で何が自分に足りないのかを見つけるということを目指してございます。実習後は自分が10日間の中で、どんなことを身につけたか、またどんな課題を発見したかというのを全学生の前で報告会を行ってございまして、また実習内容について、参加企業からのご意見を伺うための反省会を実施してございまして。

あとは、2年間を通じてのゼミナールがありまして、卒業研究レポートをまとめております。オフィスワークコースの場合は、6つのゼミがありまして、それぞれの教員によって専門性がかなり異なります。学生が自分の興味関心に従ってゼミを一つ選んで、その教員の指導のもとに卒業研究レポート、四大でいうところの卒論を作成します。

まず学生自らがテーマを見つけるというところから始めますので、課題を発見する力、そして自ら考える力、それを文章に表現する力、最後にパワーポイントを使って発表するところまでいきますので、発表する力など、総合的な力を身につけるためのものとなっております。

以上のように2年という短い時間の中で、自らのキャリアデザインを描いて実現するこ

とを目的として、どこの職場でも通用するような汎用的なスキルから専門的な能力までを身につけるということを目指したカリキュラムとなっております。

【介護福祉コース長 千草】

介護福祉コースの説明です。「ピアヘルパー」以下（学生便覧 23 ページ以降）が介護福祉コースのカリキュラムとなります。介護福祉士養成課程がかなりの部分を占めるのですが、それ以外に「ピアヘルパー」「福祉レクリエーションワーカー」「社会福祉主事任用資格」というものを入れ込みまして、介護福祉士の資格だけではなく、いろいろオプションで取れる、それをカリキュラムに入れるというものです。

福祉レクリエーションワーカーをカリキュラム外に外し、レクリエーション協会の通信教育などをやりますと 15 万円程度の費用がかかりますが、それをカリキュラムに入れこんでおりますので、大変ではありますが学費だけで取得できます。ただし、これは最終試験を受けて合格しないといけないわけでありまして。

ピアヘルパーというのは、カウンセラーの基礎の基礎ということで、「カウンセラー」というわけではありませんが、介護福祉士をやるにあたってカウンセリングというものがどういうものかということをつける。それが大きな特徴です。29 ページをご覧くださいますと、介護福祉士養成課程がこのようになっており、先程の子ども学科のところで、教職課程を見ていただくとことと同じですが、左側に規則が載っており、右側が本学の科目となります。かなり縛られてはおりますが、多少独自色を出すこともできる部分がありまして、そこに特色を出すようにしています。

いくつかの領域が分かれておりまして、「人間と社会」と書かれております。社会福祉に関する部分で一番大きい「介護」、そして「こころとからだのしくみ」プラス「医療的ケア」と、大きく三つに分かれています。人間と社会の領域、厚生労働省が定めているのは時間数となっております、240 時間となります。普通の大学の授業でいきますと、30 時間が 15 コマ分の授業ということになります。人間と社会の領域の中の三つ目が選択科目となっております。ここは人間と社会に関わる独自科目を設定してもいいということになっておりますので、「ボランティア論」「生活文化」「社会福祉と法律」となっております。介護が 10 年程前にカリキュラムが変わりましたときに、かなり医療色が濃くなりました。教員にも、それまでなかった看護師、看護系の資格を持った人を専任教員にしなければならないと変わったわけです。しかし、介護は医療とは違って生活だということです。「生活文化」を入れたり、あるいは法律が弱いところがありますので、少し法律を強調してしっかり学んでいただきたいということで、「社会福祉と法律」を入れております。

次に介護の領域ですが、「介護の基本」ということで、「老人の暮らし」「障害者の暮らし」「暮らしとレクリエーション」「暮らしとリハビリテーション」となっています。それから、「生活支援技術」というところで、「生活の理解Ⅰ」「生活の理解Ⅱ」「生活の理解Ⅲ」というものがあります。これは 10 年前の一番最初からのカリキュラムでして、いわゆる家政学

の“衣食住”をそれぞれ設定しなければならなかったのですが、10年前の改訂でこの分野で300時間あれば3科目でも1科目でもいいということになりました。ですが生活の理解は大事なところですので、被服、住居、食事それぞれ1科目ずつ置いております。ただ、やっていただける先生がなかなかおりませんので、住居のところは今年度から三重短大の木下先生に来ていただいているということです。科目を置いても教える方を探すのが大変というところもありますが、生活とくらしを強調した内容にしております。

それと、介護実習450時間となりまして、週に1回必ず専任教員が巡回に行かなければならない。以前はもっと厳しくて、週に2回、しかも「1回90分」という縛りがあったのですが、少し緩くなりまして週1回になりました。ただし、巡回する教員は介護教員講習会を終えていなければならないという決まりがありますので、教員配置が難しい科目でもあります。

次の30ページは、こころとからだのしくみと医療的ケアという医療系の分野です。「医療的ケア」は介護福祉士も喀痰吸引ができるようにと、新たに付け加わった科目です。この科目は厚労省の指定する内容を少しも変えてはいけないといこうとで、細かく中身まで定められています。こころとからだは心理学系及び看護系の教員、医療的ケアは看護系教員かつ医療的ケアの教員講習会を終わったものと定められております。

社会福祉主事任用資格に関しましては、キャリア育成学科という枠の中でありまして、ここにあげました科目の中から取っていくということになります。ピアヘルパーや福祉レクリエーションワーカー、レクリエーションインストラクター等は、各協会の定めた科目が入っております。

介護福祉士の資格が前年度から試験を受けて資格を取るという形に変わりました。ですので、介護福祉士養成課程を終えて受験資格が取れるということになります。24ページに「介護福祉演習」とあります。これは国家試験対策で、2年生後期に試験を意識して過去問を解いてみたり、そういう授業をしております。カリキュラム外では、年に3回模擬試験をやっておりまして、2回は業者の試験、1回は介護福祉士養成施設協会が全国一斉にする模擬試験が12月にあります。学生はカリキュラム外で3回そういうものもやっております。また子ども学科同様、実習反省会を介護の職員さんに来ていただいて、いろいろなお指摘をいただいて勉強させていただいております。

(2) 全体討議

【東福寺委員長】

子ども学科で資格を取らずに卒業することは可能でしょうか。そのような学生はいるのでしょうか。

【子ども学科長 千草】

卒業することは、カリキュラム上可能です。また、資格を取らずに卒業する学生はほとん

どおりませんが、年に一人二人はいます。

【東福寺委員長】

キャリア育成学科で、オフィスワークコースと介護福祉コースが二つあるのですが、コースで学位を分けられるのですか。

【学長・自己点検評価委員長 栗原】

可能です。問題ないということです。

【東福寺委員長】

キャップ制として、オフィスワークコースは24単位ですか。介護福祉コースと子ども学科はなしということでしょうか。

【学長・自己点検評価委員長 栗原】

(子ども学科と介護福祉コースは)履修科目の選択の自由度がほとんどありませんので、キャップ制は、あまり意味をなさないように思います。

【キャリア育成学科長 鷲尾】

単位が取れずに卒業が苦しい学生にとって、例えばキャップ制を18単位に設定すると、卒業できなくなる可能性が高くなってしまいます。(オフィスワークコースでは)できるだけ範囲を広げたキャップ制にしています。

【東福寺委員長】

オフィスワークコースでは、いくつくらいの資格を取っていくものですか。

【オフィスワークコース長 野呂】

平均4つから5つくらいは、取っています。

【高木委員】

カリキュラムについては、学校側で、それぞれの学科・コースの教育の目標に沿って綿密につくられていて、大変結構だと思います。ところで介護福祉コースで、専門科目で学生によっては全部取る人は90パーセントくらいいるのでしょうか。

【介護福祉コース長 千草】

受験資格を取るための単位は、ほとんどの学生が取ります。介護福祉士受験資格の欄に「必」がついています。これは取らなければいけません。それ以外のピアヘルパーや福祉レ

クリエーションワーカーはオプションですので、必要ないという学生は取りません。これも全部取るという学生は半分もないと思います。必ずしも全員が取るわけではありません。

【高木委員】

これは評価委員としてお願いでもありますが、「人間と社会」という部分は、これからの時代の流れの中では絶対必要です。ここの単位はなるべくなら取っていただきたい。なぜかという、高齢者の福祉で考えてみますと、社会全体が多様な生活を過ごしている。いろいろな業界のつながりの中で、しなければいけないことがいっぱい出てきます。介護福祉の学校を出てきた学生は、基本的なところが分かっていると、職務上反映される。社会福祉と法律や地域社会の福祉関係、生活福祉といった分野は、大学の授業の中でも関わりが深く大切です。この辺りをしっかりと勉強できるように計ってくださることを望みます。

一つの問題として事例を挙げますと、大学で学んだ方や資格を持った人が訪問介護の事業所やデイサービスで働く場合、常に家族や社会との関わりが非常に強いです。そこで基礎的なことを学んでいくということは非常に大切なのです。

【介護福祉コース長 千草】

先生がおっしゃる生活福祉等は、養成課程の必修科目で、絶対に取りなければいけないわけです。ただ、学生便覧 23 ページにありますボランティア論、生活文化、社会福祉と法律は 3 科目中 2 科目取ればよいというわけです。もちろん 3 科目全部取る学生もたくさんいます。できるだけ取るように指導はしております。

【佐藤委員】

子ども学科の実習を見せていただく中で、専門分野が 2 年間の中に詰め込まれていて、高田幼稚園に実習に来てくださる学生さんたちが、こういう言い方をすると語弊があるかもしれませんが、少し気楽な感じで楽しそうに見ていたのですが、日頃詰め込まれて頑張っているのだなと申し訳なかったなと思いました。

キャリア育成学科の履修の科目を見ていると、魅力的なところがあると思います。例えば「言葉とコミュニケーション」であったり、「プレゼンテーション」とか、自分の外とのつながり方みたいなものが、学科の目指すところがそこである、ということで非常に魅力的だと感じました。

一方で、子ども学科の方は、専門分野に特化しているところが印象的で、そこで一つ思うのは、例えば幼稚園に勤めるにあたって、専門知識は当然必要になってくるのですが、職員同士のコミュニケーションであったり、保護者とのコミュニケーションというところが大きな割合を占めているような気がします。実際、学生の方が専門知識を身につけて卒業されて、資格を持って幼稚園に勤めてみたら、専門知識以外のところで悩まれている。そこで壁に当たってしまって、この仕事は自分に合わないかなと諦めて、志半ばでということもある

のだとしたら、在学中に、そういったスキルを身につけるチャンスがあるといいのかなと思いました。自分のことで振り返ってみても、仏教学科を出て僧侶としての知識をたくさん得ていくのですが、実際にお寺に行くと、知識と全然違うところ、お同行さんとの会話であったり、真宗学とはまるで外れたような、例えば宝くじ買ったからお仏壇に手を合わせている、そういうところの気持ちをいかに受けとめていくというところが一番ネックになりました。大学では学べなかったものが必要とされている割合の方が、実は大きかったと思うと、専門知識と併せてコミュニケーションであったり、人と人が出会っていくというようなことを大学時代に学んでいただくといいのかなと思いました。

【介護福祉コース長・子ども学科長 千草】

卒業生が現場に行き学びが生かせなくて悩むという学生もおります。高木先生が養成の大学を出てきた新人職員は基礎がわかっているので、指導しやすいとおっしゃっていただきましたように大変ありがたいなと思っております。

2年間でやれることは決まっております。学生を育てていくというのは、大学と園（や施設）との連携がないと駄目だと思います。実習反省会に出てきていただいている園は大丈夫だと思うのですが、そうでない園の場合、ちょっと学生がかわいそうかなと後で思うところがあります。やはり大学との連携を広げていかなければならないと思いますのと、科目として現場での人間関係、そういうこともできたらいいなと思います。また「人間関係」という保育内容系の科目もあります。これは、子ども同士あるいは先生との人間関係となるのですが、介護の方も人間関係があります。こちらは高齢者、障害者と介護職員との人間関係、職場内の人間関係について学びます。

もちろん、学生時代に少しかじるくらいでは、とても上手くいくことはないのですが、例えば保育園のキャリアアップ研修では、職員の“マネジメント”が強調されてまして、新人では難しいかもしれませんが、新任あたりが一生懸命そのあたりをやっていただいで、上手く育てていただけると、ありがたいなと思っております。

【栗眞委員】

カリキュラムについては、貴学のディプロマポリシーに基づいて緻密に組み上げられたもので、何とも申し上げることができない部分もありますが、私どもの関わる場所は実習となります。来ていただいた方が実習をしていただく。去年のデータを見てみますと、いろいろと合わせて15件受け入れておりました。人数でいきますと258名となっています。この中には中学生、高校生の職場体験実習もあり、他の大学の実習も2件程ございまして、1名ずつの2名となります。他にも7名程ありまして、他はすべて高田短大さんからの受け入れとなっております。年度初めの見学実習がありまして、これは遊びに来ていただくようなものでございますが、2日間で160名となります。それとゼミの実習ですと、37名、16名とまとまって来ていただいております。

純然たる保育実習として昨年度は3名、3名の計2回の6名を受け入れさせていただきました。いずれも話を聞きますと、とても良く仕込んでいただいております、高田の学生は良いという評価が先生方の意見であります。

細かいところでは、実習日誌というのがあるかと思えます。これは大学同士で内容が決まっているのでしょうか。若干違うところもあるかと思えますが、時間、環境、子どもの活動、いろいろあるのですが、「実習生の関わり」というものを設けているところも実はありまして、実習の前半部分は先生方がどうしたかということを書いているのと一緒に、それに自分がどう関わったかということを書いていくことも必要ではないかという意見が先生方からありました。それと、ピアノですが、必修なのでしょうか。

【学務委員長 福西】

ピアノは1年生の前期は必修です。ただ、後期は選択なのですが、履修指導でほぼ取りなさいと指導しています。

【栗眞委員】

教えているときに、(ピアノの実力)に差のある学生がたくさんいます。現実の仕事の中で覚えたり、卒業してから自分で努力してやるということでもいいとは思いますが、全部必修でもいいのかと思ったりもします。ピアノがあまり弾けない学生というのは、現場で幼児さんに使えないのです。乳児さんにしかいけない。いろいろローテーションしていくのに、乳児さんのところにしかいけないとなりますと、困ったことになったりします。それと、日本の音楽教育はピアノから入ってきたと思ひまして、一辺倒といえますか、いっそのこと違う楽器でできたらとも思ひます。佐藤先生はギターをやりますし、私もそちらが専門なのですが、ピアノ以外はないのでしょうか。

【学務委員長 福西】

今のところ楽器は、ピアノだけです。

【栗眞委員】

現場になると、いろいろなやり方があると思ひます。リズムだけならカスタネット、タンバリンでもいいのかと思ひます。

【福西教授】

もちろん授業では、ピアノが弾けても歌が歌えないと、ということで指導しています。歌唱力やちょっとした楽器ということでもできるということです。

【鈴木委員】

ピアノの話が出ましたが、ピアノは音域も広く楽器の基本として最もふさわしいものと思います。わたくしは学芸学部で小学校教員免許を取りましたが、当時は苦学生でアルバイトばかりしていて必修の「バイエル」を練習する時間がありませんでした。単位認定演奏試験では先生に苦学の現状を説明し、「バイエル」の代わりに「春が来た」と「月の砂漠」を代替曲として願いだしたのであります。担当の先生は大らかで「つまらずに弾けたから合格にする」と、単位認定をして下さいました。あの時代は良い時代でございました。

資料を拝見しましたが、ディプロマポリシーに基づくカリキュラムポリシーがしっかりと固められており、すごいなという感じです。ただ、学生さんには必修科目が多いので、受講者各自がこれを選択するのだという余裕があれば、もっと楽しいし、「学問の自由」にも繋がることになるでしょう。

先ほども話が出ましたが、「人間と社会」という取り組みは大変良いことだと思います。今の世の中はグローバル化や AI(artificial intelligence)化に向かっておりまして、残念ながら「人間とは何ぞや」というところが軽視されているようです。けれども、どれだけ人工社会が進んでも、最終的には人間の感性や理性でものごとを判断していかなければならないと思います。この「人間と社会」に力を入れていただくのはありがたいことです。

【谷口委員】

今回の評価委員会では詳細な各学科コースのカリキュラムの中身について聞かせていただきました。本当にすごい形でやっていただいております、子どもたちを送り出す側からすれば心強く思います。

前回との評価委員会とのつながりの形で、PROG アセスメントテストの導入を検討していると聞きました。生徒たちが卒業していくにあたって、ジェネリックなスキルをどの程度身につけているか、他の大学と比較しながら測っていく。そのような仕組みを導入していくというお話を聞かせていただいたと思います。それが1年経って、今年度どのような形で実行されているのかをお伺いしたいのと、もう一つ、今年度新しく「LMS」という学習管理システムを導入されたということ、こちらの「短大通信」に載っているのを拝見しました。これもまた生徒にとっては大変便利な仕組みで学びをサポートしていただいていると思いました。実際にどの程度運用されているのかを聞かせていただきたい。

それと最後はちょっと辛口な質問かもしれませんが、「授業評価アンケート」の結果の概要と分析のところを読ませていただきましたら、「学生の授業に対する取り組み」の自己評価のデータが、学科コース別に出ていると思います。子ども学科の方は、1年生、2年生共にけっこう高い数字で90%台という数字が出ていますが、オフィスワークと介護コースの方では、2年生になるにつれて、数字が下がっていく傾向があるようなデータが出ていました。このあたりをどのように分析して、次の改善に活かしていくか、PDCAのサイクルをどう回していくか、と思っています。このあたりの分析をどのように捉えて、次に反映させて

いるか。聞かせていただければと思います。

【学長・自己点検評価委員長 栗原】

まず、私の方から PROG について答えさせていただきたいと思います。去年の外部評価委員会で PROG を導入したということを申しました。これの継続について、各学科と話し合いをしましたところ、継続していくのはキャリア育成学科オフィスワークコースだけにしよう、という結論になりました。

最初の試みといたしましては、両学科・コースで「リテラシー」と「コンピテンシー」の両方のテストを実施しました。そして、7月の始めから、テスト結果に基づいて、ゼミの担任が学生一人ひとりと面談を実施しました。その面談結果に基づいて、その後いろいろと検討しました結果、子ども学科とキャリア育成学科オフィスワークコースとでは、効果に対する評価がかなり違った結果になりました。そこで、今後の継続についてはキャリア育成学科オフィスワークコースのみで、コンピテンシーのテストを実施して、教育効果を測っていきましょうということになりました。ちょっと十分な説明ではなかったかもしれませんが、継続して実施しておりますオフィスワークコースについて鷲尾先生から説明いただきます。

【キャリア育成学科長 鷲尾】

昨年度、入学生に対して実施し、各学科・コースで、ゼミの先生が返却し指導していく。それを全体で決めていたのですが、学科によって教員の対応や考え方が少し違うところがありました。オフィスの場合は SPI 試験を就職前にやっております、その評価がかなりシビアなものを返しております。評価を学生へ返すことに慣れていたということもありまして、オフィスの方はそのままにしたのですが、なかなか全学統一で同じやり方というのは難しいところがありまして、学生の費用もかかるということもありました。ですので、継続としてはオフィスだけで、リテラシーの部分は SPI でやっていることもありまして、それでは測れないコンピテンシーは、是非継続してやりたいということで、今年度も実施しています。今の2年生については、1年のときに1回して、1年の最後の方にもう1回継続して、それをもとに学生と面談しています。

LMS については、クラウド型の「manaba」を導入していただきまして、今年度4月より運営を始めております。4月と5月の運用状況を6月の教授会で報告させていただいたのですが、全開講授業の中で使っているのが1割でした。三重県内の他の大学での様子を聞いていたのですが、そういったところでも16%という話を聞いておりましたので、立ち上がりとしては、まずまずと感じております。使い方について慣れていないとか、まだまだ知らない先生もおられるのですが、例えば子ども学科のある先生は、私以上にどんどん使っておられたりして、どんどん広げていきたいと思っています。また、いろいろな情報をアクセスするのに、まず manaba から入っていく形にしてほしいと使うことを前提に提案する学生もいます。それから、授業でたくさんレポートが出るのですが、そのレポートがいつまで提出

なのか、自分が出したのか、そういった管理がシステムを使うとできますので、それが便利だという学生の声があるなど、使い始めている学生は、前向きに受け入れているようです。これから定期的にこういう使い方ができる、といった教員向けの話提供等をして、もっと活用してもらえるように進めたいと思っております。

【学長・自己点検評価委員長 栗原】

三つ目のご質問の、授業評価アンケートの結果で学生の取り組みということですが、子ども学科は谷口先生がおっしゃったように、90%くらいはしっかり取り組んでいるという結果でした。オフィスワークコース、介護福祉コースの2年生で少し下がるという結果になっております。その結果の分析はなかなか難しい問題です。

【谷口委員】

数値は年度によっていろいろと移り変わるでしょうから、こういったアンケートを取っていただいてデータを出すということは非常に大事なことだと思います。それを分析して、課題を整理して、次へつなげていく仕組みがどうできていくのか、といった趣旨の質問です。

【介護福祉コース長 千草】

個人の教員が自分の結果を見ていることはあると思うのですが、学科コース単位で結果を見るということは、実はやっていないです。これからやっていきたいと思っております。

【谷口委員】

高校ですと、生徒の満足度アンケート調査をした場合、学年単位や分掌単位で議論をしてこの学年はどうしてこの評価が高くて、こっちが低いのか。その原因はこんなことが考えられる、といった意見を出して、それを違うもっと大きなレベルの委員会や職員会議で議論し、課題を整理して、次はここを改善しようという流れがあります。高田短大さんにもそれはあると思いますので、PDCA サイクルで回るようにしていただければと思います。

それからもう一つ、PROG のところで、最も大切な点は、卒業していく子どもたちが社会に出て行くうえで、高田短大で学んだ2年間の成果をどう測るかということです。社会常識やあるいは対人関係のマナーあるいはコミュニケーションのスキル、そこがどれだけ力が付いたのかということ子どもたちが客観的に自分で確認できたら、大きな自信となって、社会につながっていくのではないかと思います。そういった意味でPROGはそのままでは導入が無理だとしても、独自にいろいろな手法は考えられると思います。そういったところもいろいろと研究していただければと、そういった趣旨です。

【学長・自己点検評価委員長 栗原】

授業評価につきましては、その結果が学科やコースのPDCAにつながるような仕組みは

できていないわけですが、個々の先生が結果を見て、学生に取り組ませる姿勢がどうであるかということ振り返って、それを次につなげるという仕組みはできておるかと思います。今後その辺りの検討をさせていただきたいと思います。

【東福寺委員長】

それぞれの学生が積極的に取り組んでいるようですが、例えば予習復習に何時間かけたかといった数字は出ているのでしょうか。

【ALO 山口】

お送りしました資料の四つ目の項目、「学生調査報告書」というところに載っております。

(3) 講評

【東福寺委員長】

本学でも、入口と出口は重要視されています。高田短期大学さんの場合、出口はいろいろな資格を取って就職率も良いと思いますが、入口の段階で一つ気になったのですが、オフィスワークと介護福祉、二つのコースがあります。入試は別でやっているのでしょうか。

【キャリア育成学科長 鷲尾】

別でやっております。

【東福寺委員長】

拝見していると、介護福祉コースの方は苦戦しているようですが、最近では上向きの傾向がみえます。実は、三重短大でも介護福祉を作らないかというお話をいただいたのですが、現状では全く無理だなと思いました。そういう社会的な要請がありますから、是非頑張っていて、クリアしていただきたいと思うと同時に、この二つのコースがコースであるべきなのか。いろいろところで性格的に違うようですので、むしろ専攻になった方がいいのではと思います。

【介護福祉コース長 千草】

専攻になると、教員配置が全く違いますので、なかなか難しいです。

【東福寺委員長】

オフィスワークコースの学生が、どの資格を取るのか入学時に決めるのでしょうか。必修科目もありますから、入学時までには大体決まっていけないと思いますが。

【キャリア育成学科長 鷲尾】

最初の履修登録の時に、私たちと相談しながらやっています。

【東福寺委員長】

その段階で「合わない」と思ったら変えることは可能ですか。この資格を止めてこっちを取りたいとか。

【キャリア育成学科長 鷲尾】

カリキュラム上で取れる資格が、教育効果も考慮し、けっこう緩やかなものになっておりまして、上級でなければ、途中でいくらでも変えることはできます。ただし上級に関しては、取りにくいところもあるので、場合によっては難しいケースがあるかもしれません。

【東福寺委員長】

オフィスワークの学生が、介護福祉の科目を取ることはできますか。

【キャリア育成学科長 鷲尾】

科目によって、できるものがあります。ピアヘルパーやレクリエーション、人間と社会も可能です。介護領域と医療的ケアと介護福祉演習は、介護コースのみとなっています。

【東福寺委員長】

カリキュラムマップや履修マップが非常に詳しく書いてあるのですが、どのように学生に指導して、周知徹底しているのでしょうか。かなり丁寧に説明しないといけない。そしてアフターケアも必要かと思います。緻密に練られていますが、けっこうややこしいなと感じました。学生一人ひとりにかかる手間が増えるかと思います。

また、先生方の持ちコマ数も多いかなと思います。教員の負担が多いところに、各先生方が大学の場合は研究もしなければいけないので、研究の時間がどの程度確保できているのか、そこが気になるところです。

去年私どもの短大も認証評価を受けたところですが、その時に、「単位の実質化」という話ができました。うちの場合は逆キャップ制、2年次に20単位以上取らなければいけないという縛りをかけています。高田短期大学さんの場合は、学生一人ひとり、きちんと予習復習もしているということですので、そういった面で実質化できているのかなと思うのですが、しかし、これだけ科目が多いと、それができているのかなとちょっと疑問に思います。

【学長・自己点検評価委員長 栗原】

「単位の実質化」というのは本当に難しいです。実際、単位に見合った勉強をさせるということは、ほとんど不可能に近いのではと思います。逆に、キャップ制を設けない方が勉強させられるという現実があるのではと思います。短大だけではなくて、四大も事情は同じで

はないかと思えます。

【東福寺委員長】

キャップ制を実質化できているという訳ではありませんか。

【学長・自己点検評価委員長 栗原】

履修科目が減ることによってかえって勉強時間を短くしているということになります。それが現実なのではないかと思えます。

【鈴木委員】

キャップ制のお話ですが、わたくしはでき得る限りたくさん履修するほうが良いのではないかと思えます。縦しんば単位修得が出来なかったとしても、その科目の匂いを嗅いでおくことに大きな意味があると思えます。それは卒業して何年も経た後に、本格的に学ぼうと志を立てたとき、昔に嗅いだ匂いが力強く水先案内をしてくれるからです。

【高木委員】

このレポートの振り返りを読ませていただいた中で、留学生がいらっしゃるのですか。

【介護福祉コース長 千草】

おります。

【高木委員】

何人くらいですか。

【介護福祉コース長 千草】

介護の方は、1学年で10人前後おります。介護が在留資格の一つに入りまして、介護福祉士の資格を取れば、在留資格を得ることができる。去年の9月の改定です。留学生が介護分野に入学することが全国的に増えているようです。

【高木委員】

そういった学生さんがいたらいいなと思いながら、読ませていただきました。ただ、最後に書いてあるように、「実習を通して介護福祉士をどのような仕事だと思えますか」というところで、高短では「仏教福祉」という科目があります。そういった仏教のことは、ちゃんと教えているのかなと思って、見ていました。あまり一般の学校ですと、宗教的なことを教えません。そのような特徴があってもいいと思えます。宗教というものは人間にとって生きていく上の基本になると思っています。そこのところを時間外であっても織り込んでいる

のは、ここの学校の特徴であるし、それは続けていただく方がよろしいと思います。

7. 諸連絡

【ALO 山口】

東福寺委員長、議事進行いただきまして本当にありがとうございました。外部評価の先生方も非常に多方面からの貴重なご意見を賜りまして感謝申し上げます。

それでは、今後につきまして連絡をさせていただきます。前回同様、報告書を作成しまして、後日郵送させていただきます。来年の1月頃を予定しております。先生方からもご意見をいただくかと思いますが、よろしく願いいたします。

外部評価委員の先生方には引き続き、本学の教育ならびに様々な側面に関しまして、評価・ご意見を賜ることもあるかと思いますが、今後ともよろしく願い申し上げます。

最後に、閉会の挨拶を本学学長・自己点検評価委員長の栗原よりございますので、よろしく願いいたします。

8. 閉会の挨拶

【学長・自己点検評価委員長 栗原】

本日はご多忙のところ、第2回外部評価委員会にご出席いただきまして、本当にありがとうございました。

二つのコースを専攻ではなくコースにしている、これは経営上の問題が一番大きく関わっています。実は文科省からもその辺りを指摘されまして、「経営を考えてそういうことをしている学校は、けっこう失敗しているケースが多い」と大変厳しい言葉を言われたりしました。しかしながら、現在の状況からすると、本学が介護福祉コースを続けていくうえでは、このコース制がベストであろうと判断しています。社会的責任という観点からも、今後とも継続していきたいと考えています。

また留学生を確保していくことが、経営に関しては必要であろうと思います。なかなか高校生を確保していくことは、難しい状況になっています。では、高校生が介護の世界に行かないかという、そうではなく、高校を卒業して直接介護施設に就職するというケースはいくつかあります。しかしなかなか、介護福祉士の資格を取るために、本学を始めとする養成施設に来てくれない現状があります。一つには高校側が、就職しても簡単に介護福祉士の資格を取れると勘違いしている部分もあるのではないかと思います。受験資格には450時間の勉強時間が必要だということを知っていただいて、募集につなげることができれば、ありがたいと考えています。

その他にもいくつかご指摘をいただきました。本学がPDCAサイクルを回すために考えなければならない重要な点についてもご指摘いただきました。本当にありがとうございました。

去年評価いただいた点をもとにして、いくつか改善に向かうことができました。今回もさ

らなる本学の改善に向けて、いただいたご意見を大切にしていきたいと思えます。本日は本当にありがとうございました。

○総括（提言と今後に向けて）

本会において外部評価委員より、以下のような評価・提言をいただいた。

- ・本学カリキュラムについては、建学の精神やディプロマポリシー、さらに学科・コースの教育方針に基づき緻密に組み上げられており、評価できる。
- ・だが緻密・過密な分、カリキュラムや履修マップ等の学生への周知、卒業や資格取得への細やかな学生ケア、単位の実質化など、実際上の難しさもあるのではないか。
- ・専門教育も重要だが、それだけに偏らず、個人と家族や地域との関係性、多様化した社会に関する基本的知識・教養を身につけるような領域、そしてコミュニケーション力を磨く領域の教育を、今後一層力を入れてほしい。
- ・そのような意味で、宗教的側面が教育に織り込まれている点は、高田短期大学の強みではないか。
- ・授業評価結果について学科・コース単位で分析し、課題を整理して今後の改善（PDCAサイクル）へつなげていくような仕組みをつくってほしい。
- ・PROG や manaba など、今後積極的に導入・活用し、学生の学習成果、学生が社会に出てからの力や自信へ繋がるよう、はたらきかけてほしい。

以上賜った意見をもとに、ディプロマ・ポリシー、本学の教育・指導内容の特色や強みをあらためて見つめなおし、それらが本学学生の学修成果充実化へいかに結びつくのか、またそれを具体化・実現する組織的システムの構築などについて、今後も検討していきたい。